

清流の国ぎふ

2020 地歌舞伎

勢揃い公演

美濃歌舞伎保存会 (瑞浪市)

美濃歌舞伎保存会は、江戸期より瑞浪市内で盛んであった地歌舞伎を復興・保存するため、昭和四十六年、(株)日吉ハイランドの従業員および地域の有志によって結成され、翌年から毎年公演を行ってきました。

当保存会では、演じることはもちろん、江戸時代より伝えられる四千年を超える衣装群(県有形民俗文化財を含む)や、昭和五十二年に旧益田郡下呂町の「相生座」と旧恵那郡明智町の「常盤座」を移築・再建した芝居小屋「相生座」の保存活用、衣裳や着付けかつら化粧などの後継者育成などを柱に活動しています。毎年二回の公演は地域密着の活動として定着しており、平成十三年に立ち上げた子供教室は、今では、浄瑠璃語りや三味線の指導にも取り組み、若い世代が舞台にのるまでに育つてきています。

さらに、地歌舞伎文化の魅力を海外にも発信するため、チニアメリカイタリヤベトナムなどの国々で独自の活動を展開したほか、平成二十七年にはイタリア・ローマ大学でのジャパン・エス・ティバルに子供たちのみでの上演、平成三十年にはフランス・パリ市内でのジャポニスム2018にも参加、同年スペインのサラマンカ大学ではワークショップも開催いたしました。令和元年には、ハワイ大学で衣装かつらの授業を行いました。今後も、先人から受け継いだ地歌舞伎を次世代へ引き継いでいくことを使命に、地域の皆様のご支援をいただきながら活動していきます。



飛騨市河合町歌舞伎保存会 (飛騨市)

河合町の地歌舞伎の歴史は、文化六(一八〇九年)頃から始まったといわれています。特に明治中期から昭和三十年代にかけては、戦時下を除き、地域の各神社で若杜中を中心とした奉納歌舞伎が盛大に行われていましたが、過疎化や娯楽の多様化などにより衰退してしまいました。

昭和五十四年、当時の河合村に伝統芸能保存会が設立され、その民謡部を主体とした地歌舞伎同好会が、河合村産業文化祭において三歌舞伎を上演しました。これが契機となつて河合の地歌舞伎が本格的に復活し、文化協会の設立と村芝居公演の開催を経て、平成十九年二月に「河合町歌舞伎保存会」が設立され今に至ります。

当保存会では、衣裳の不足や三味線太夫の不足といった諸課題を他の保存会のご協力や各位の指導で乗り越えながら、年一回の定期公演「河合町時歌舞伎公演」を継続開催するとともに、近年は、所作や化粧の講習会なども開催し、活動に興味を持った若い世代の加入にも繋がっています。会員誰もが、歌舞伎の楽しさ・魅力に取られ、経験を重ねるほどにその「奥深さ」をひしひしと感じながら、河合の地歌舞伎の保存・継承に取り組みんでいきます。



可児歌舞伎 (可児市)



可児市内ではその昔、素人歌舞伎が庶民の大きな楽しみの一つとして盛んに上演されており、市内のいくつかの神社には奉納芝居が行われていた痕跡があります。戦後二時は復活したものの昭和三十年代に入つて衰退し、可児の地歌舞伎の中心的役割を果たしてきた地域の貸衣裳屋も廃業することとなりました。

平成十年、地歌舞伎の貸衣裳屋であったことから、衣裳やつら、小道具等多くの寄贈が可児市になされたことを契機に、「歌舞伎とは何ぞや」をテーマにした市民講座が開かれました。この講座の終了生が中心となつて、平成十二年に結成されたのが可児歌舞伎同好会です。当会では、芝居の上演だけでなく、地歌舞伎を学ぶところから活動を開始しており、勉強会の開催や歌舞伎衣裳の制作など、特色ある活動を行っています。

次世代の人たちに地歌舞伎の楽しさを伝え、地域の誇れる伝統文化として手渡していくため、会員一同、気持ちを一つにして精進していきます。

開催期間

2020年1月19日(日)～7月19日(日)
全11公演(29団体出演)

【2月公演のお知らせ】

開催日: 2020年2月15日(土)

出演: 佐見歌舞伎公演実行委員会(白川町)
白雲座歌舞伎保存会(下呂市)

1月15日(水)より
入場整理券配布中

清流の国ぎふ

2020 地歌舞伎

勢揃い公演



スタンプラリー開催

勢揃い公演開催期間中、1公演ご鑑賞ごとにスタンプが1つ溜まります。スタンプ数に応じて素敵なグッズをプレゼントします!

地歌舞伎とは

地歌舞伎とは、地元の素人役者たちによって演じられる地域に根付いた歌舞伎です。江戸や大坂から巡業にきた旅役者に芝居を習い、神社の祭礼時などに演じられ、やがて芝居小屋を造り、楽しまれるようになります。現在、岐阜県には30を超える地歌舞伎保存団体があります。さらに、県内各地に残る芝居小屋のうち、国内最多の9棟の芝居小屋で、毎年地歌舞伎の定期公演が開催されています。岐阜県は全国有数の地歌舞伎が盛んな地であり、江戸時代から伝わる演目や振付が、今なお、人々の手によって大切に受け継がれ、演じられています。

清流の国ぎふ

2020 地歌舞伎

勢揃い公演

いづれ開幕

2020年1月19日(日)

◆ 開演 11時00分 (開場 10時30分)

◆ 会場 ぎふ清流文化プラザ2F 長良川ホール

演目

◆ 11時00分 (30分)

幕開けの口上

◆ 12時00分 (60分)

時今也枯梗旗揚 本能寺馬盗の場 美濃歌舞伎保存会(瑞浪市)

◆ 13時30分 (65分)

寿曾我対面 工藤館の場 飛騨市河合町歌舞伎保存会(飛騨市)

◆ 15時05分 (65分)

新版歌祭文 野崎村の場 可児歌舞伎(可児市)

終演 16時10分(予定) 演目・上演順は変更となる場合があります。



beyond 2020

日本橋

文化庁

主催/岐阜県・(公財)岐阜県教育文化財団
協力/岐阜県地歌舞伎保存振興協議会
本公演は「令和元年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業」の採択を受けて実施します。

TOKYO 2020
応援プログラム



時今也桔梗旗揚 本能寺馬盗の場

美濃歌舞伎保存会（瑞浪市）

おだはるなが、園生の局や家臣らと本能寺に着陣します。真柴久吉が献上した馬盟（馬に水を与えるための盟）に活けられた錦木に満足する春水ですが、傍らにある紫陽花と昼顔の花籠に不審を抱きます。この花籠は、武智十兵衛光秀の妹、桔梗が活けたものでした。桔梗は春永に兄光秀の謹慎を解くよう許しを乞います。家臣の取り成しもあり、光秀が召し出されます。酒宴を開いている春永は光秀を許すとして馬盟に酒を入れて与えます。侮辱をこらえ、盃を飲み干した光秀に、中国へ出陣し、久吉の配下となるよう命じます。そして森蘭丸には光秀の領地を、中尾弥太郎には光秀が懇望していた名刀、日吉丸を与えました。

一方で、光秀には女性の切髪が入った白木の箱を与えます。この切髪は、その昔、貧苦にあえいでいた光秀のため、妻が、珍客をもてなすために自らの髪を切り、売り払ったものでした。春永は満座の中で光秀を侮辱し、さらなる謹慎を命じます。春永の仕打ちに怒りをにじませつつも我慢する光秀ですが、花道を引き込む際は、感情に震えながら切髪の箱を抱えなおし、叛意を示すのでした。

壽曾我対面 工藤館の場

飛騨市河合町歌舞伎保存会（飛騨市）

工藤左衛門祐経は源頼朝の信任厚く、幾多の大名の筆頭の地位である一鷹職を賜り、さらには、富士のすそ野で行われる巻狩の総奉行まで仰せつかりました。これを祝う宴の席に大名たちが詰めかけ、大磯虎御前、化粧坂少将ら全盛の遊女が花を添えています。

ここに朝比奈三郎義秀のとりなしで、曾我十郎祐成と曾我五郎時致の兄弟が工藤に会いにやつてきます。工藤は兄弟を見て、縁のある河津三郎祐泰に似ていると言います。実はこの兄弟、河津三郎の忘れ形見であり、父を討った仇敵として工藤を十八年間付け狙っていたのです。弟は工藤を討とうとはやるも、兄が冷静にたしなめます。

この様子を見守っていた虎御前と少将は、工藤に「兄弟へ盃を」ととりなします。礼を失せず盃を受ける兄に、対し、いきりたちながら受ける弟。斬りかかろうとする弟に、工藤は紛失した源氏の宝刀「友切丸」が見つからない限り、仇討ちはできないと伝えます。そこに折しも、鬼王新左衛門が駆け付け、友切丸を発見したと報告します。兄弟はこれで仇討ができると喜ぶも、工藤は「時節を待て」と申し渡し、総奉行の役目が終わらぬうちは討たれるわけにはいかないと話します。工藤は大事な役目を終えたら、潔く兄弟に会おうという思いを込め、巻狩の狩場の通行手形を与え、別れるのでした。

◆配役

武智十兵衛光秀	神山 拓也	腰元	榊原 恵
光秀妹 桔梗	小栗 久美子	〃	浅井 胡粹
小田春永	宮野 陽介	〃	小倉 妃生
日和上人	大塚 富男	〃	加藤 謙人
園生の局	遠山 紗也加	侍	六戸 柚葉
森蘭丸	榊原 勝哉	〃	小栗 碧
矢代条助	堀部 愛	〃	小栗 古都芭
浅山多三	小倉 結奈	〃	〃
中尾弥太郎	田中 みなみ	〃	〃

新版歌祭文 野崎村の場

可児歌舞伎（可児市）

大阪近郊の野崎村に住む百姓久作の養子久松はもと和泉の国石津の家臣の遺児ですが、十歳のころより油屋に丁稚奉公し、油屋の娘お光とわりない仲となつています。

しかし久松は金の不始末の嫌疑をかけられ、事態が落ち着くまでの間、油屋から戻ってきています。お光との仲を知らない久作は、義理の娘お光と久松を結婚させようとします。お光はこれを喜び、いそいそと祝言の料理を作っています。そこへ、お光が訪ねてきました。気もそぞろの久松を、やきもちを焼いたお光が責めます。状況に気がつかない久作は、花嫁支度のためお光を奥の間へ連れていってしまいます。

人がいなくなると、お光は久松のそばへ駆け寄り、激しい胸の内を語ります。自分のことを諦めるよう説得する久松ですが、死を覚悟するお光の想いに、心が揺れます。そこへ奥の間で話を聞いていた久作が現れ、人の道に従い思い切るよう二人を諭します。久作の心からの説得に、お光は久松を諦め、久松はお光と祝言すると答えますが、その実、両者ともに心中の決意をしているのでした。

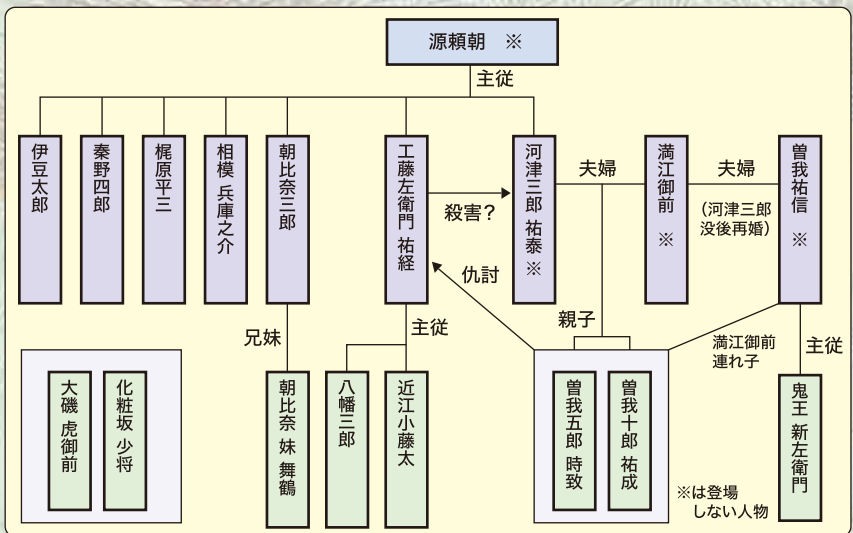
奥でその二部始終を聴いていたお光は、所詮望みは叶うまいと悟り、自ら髪を切り尼になって現れます。そこにお光の母お常が現れ、金の不始末の嫌疑が晴れたことを告げ、お光の心根の優しさに感謝し、世間体を気づかい久松を駕籠で、お光を舟で連れ帰ります。二人の幸せを願いながら見送ったお光でしたが、二行の姿が見えなくなると、溢れる想いに泣き崩れるのでした。

◆配役

工藤左衛門祐経	井下 英人	伊豆 太郎	上口 淳
曾我十郎祐成	岩佐 善法	秦野 四朗	安達 柊都季
曾我五郎時致	板屋 克也	相模 兵庫之介	大家 穂月
朝比奈三郎	蒲 貞憲	朝比奈 妹舞鶴	大家 美奈都
近江小藤太	土田 庵斗	大磯 虎御前	大家 哲矢
八幡三郎	佐々木 伊織	化粧坂 少将	竹林 久緒
梶原平次	梶原 正也	鬼王 新左衛門	野村 久徳

◆配役

久松	後藤 幸慶	およし	玉野 真衣
お光	坂口 美紀	駕籠	若月 かよ
お染	杉山 みち代	〃	水野 テツ子
お光父 久作	柳生 貴美恵	船頭	内山 美子
お染母 お常	小島 美枝子	〃	〃



振付指導	松川 竜之介	顔師	市川 紫女升
太夫	竹本 美芳	着付	林 まゆみ
三味線	豊澤 順八		小川 厚子
鳴物	熊崎 由奈		奥村 めぐみ
	住田 喜久次		桑田 幸代
	鳳川 辰次		井本 治子
	小野崎 隆賢		中島 千枝美
			小栗 幸江
			美濃歌舞伎衣裳部